



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点から
<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の学習活動において、言語活動充実の工夫を積極的に行い、思考力や表現力等を養う。 学び合いの工夫を取り入れる。 タブレットPCを多様な学習活動や基礎学力の定着に活用する。 年2回の読書旬間や、読み聞かせ活動などを実施し、読書活動の充実を図る。 児童が自ら課題をもって問題解決に向かう授業を推進するために、学習資料や教具の充実など、学習環境の整備を進める。 小中一貫教育の視点を踏まえ、課題改善カリキュラムを基に個別指導の指導体制を工夫する。 算数科において、習熟度別指導を行い学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導の工夫、充実を図り、分かる喜びを体得させる。 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。 自然環境や地域人材を生かし、体験活動や栽培活動を実施する。 学級活動や特別の教科道徳の充実を通じて互いに認め合い、高め合えるような場を設定する。 年2回の読書旬間や朝読書の時間を設定することで、校内における読書活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の「確かな学力」の定着を図るために、教員一人一人の授業力向上を目指した校内研究を推進する。 OJTとして主任教諭を講師とする研修会を、年間を通して計画し、指導力の向上を図る。 支援を要する児童への理解を深めるための研修会を年2回行う。 不登校、いじめを防止し温かい学級づくりを進めるための研修会(8月)を実施する。 2年次、3年次研修に伴う校内の授業研究会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごと、単元ごとに観点別学習状況の評価を行い、授業改善に生かす。 指導と評価の一体化を目指し、効果的な評価活動を行う。 年間を通して、補充学習や評価テスト等を継続的・計画的に行うことで、基礎基本の定着を図る。 児童一人一人の学習意欲を高められるよう、各教科において児童自ら振り返りや自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 週1回、放課後に地域未来塾を行い、地域の学習支援員により低学年の基礎学力の向上を図る。 保護者や地域、学校評議員により学校評価を実施し、授業改善に活用する。 学期中、休業中の家庭学習の充実を通して学力の定着につなげる。 学校公開、保護者会、個人面談、日常の連絡を活用して保護者との連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区別協議会の際に、全教科分科会を開き、各教科の研究、指導を通しての連携を図る。 中学校区別協議会において中学校と情報交換をし、小中・小中の連携を強化する。

授業改善プランの検証 ○保護者や地域、学校評議員による学校評価を参考にする。 ○学年・教科部会で評価する。
○職員会議で評価内容を共有し、改善策を検証する。